

# 東京オリツピックの実現で、 環境に配慮、成熟した東京を 世界にアピール。

民間初の副知事就任で話題となった作家の猪瀬直樹さん。

東京都副知事就任から1年を経て、  
東京オリツピック招致や環境問題、地方への税源移譲など、

果敢に取り組む姿は、常にポジティブ思考で、組織と闘う戦士そのもの。

そんな猪瀬副知事に、

話題の東京オリツピック招致や雇用問題、女性経営者について

吉川会長が伺いました。

## 縦割り行政を打破すること その難題にも着手する

吉川：副知事になられて1年以上経ちますが、1年を振り返っての率直なご感想はいかがですか？  
猪瀬：いやあ、まだまだですね。とにかく東京都という組織は規模がでかい

し、広いし、人も多い。縦割り行政だから、なかなか思うようにいかない面もありますね。一つ一つの部署が会社みたいになっていて、何がどこまで進んでいるかわからない。それを把握するまでに時間がかかる。だからブレインからは『この縦割りを何とかしてよ、猪瀬さん！』って、よくハツパをかけられるんですよ(笑)。

吉川：でも、その縦割り行政に風穴を開けるのが猪瀬さん流のやり方で、石原都知事も都民も期待しているところだと思いますが。  
猪瀬：例えば、東京オリツピックの招致については、招致本部という部署が取りまとめている、環境局が『緑の東京10年計画』というスローガンで環境型のオリツピックのために動いてい

る。招致は招致、環境は環境と別々の局が担当しているわけ。だから、伝えることがバラバラで一貫性がなくなる。環境オリツピックの実現という一つのことを違う部署がバラバラにやっているから、一本の筋が通り切っていない。だから、都民にうまく伝わらないですよ。それを、一丸となってやっつけていかなくちやダメなんです。



猪瀬直樹(いのせ・なおき)／プロフィール

作家。東京副都知事。1946年、長野県生まれ。1987年『ミカドの肖像』で第18回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。『日本国の研究』で1996年度文藝春秋読者賞受賞。以降、特殊法人などの廃止・民営化に取り組み、2002年、小泉首相より道路関係四公団民営化推進委員会委員に任命される。政府税制調査会委員、東京大学客員教授、東京工業大学特任教授、2007年6月、副知事に任命される。最新刊は『霞が関「解体」戦争』（草思社）。

吉川：今一つ、東京都民の盛り上がり  
に欠けているような印象があるんです  
が、それを打開するために、具体的に  
猪瀬さんはどんな動きをされたんで  
しょうか？

猪瀬：石原都知事から、「オリンピック  
招致のためのちゃんとしたPRツール  
を作ってほしい」と依頼があつて、東  
京の魅力在海外へ紹介するものを、僕  
が陣頭指揮を取って作りました。いま  
でPRツールがなかったこと自体が不  
思議なんですけど、今回は、大手代理  
店から個人事務所まで10社ぐらいに公  
募して、ディレクターの実績と企画重  
視でコンペをしたんです。制作スタッ  
フからBGM、撮影までとことんこだ  
わりました。これは都としてはかなり  
画期的な出来事でした。

吉川：(ガイドブックを見て)写真がと  
てもきれいで見入ってしまいますね。  
東京の文化や繊細さが見事に表現され  
ていますね。

猪瀬：見ていただければわかるように、  
東京には江戸文化や伝統工芸、四季  
折々の風景や食文化など、繊細さもあ  
りつつ最先端都市といういろいろな顔

を持つているんです。東京のレストラ  
ンがミシュランで三ツ星を取ったよう  
に、東京の食文化は今や世界一。これだ  
け世界中の料理を美味しく食べられる  
都市は世界で東京だけです。日本人の  
美意識、デリケートな味に対するこだ  
わり、東京が世界に誇れるものはたく  
さんあるんです。だから、もつと東京  
に自信を持つてほしいんです。この素  
晴らしさを世界中にアピールするべき  
だと思つて今回DVDを作ったんです。



DVD「TOKYO COLORS」は(本編約15分、ダイジェスト約4分、  
8言語9種類)と、「FUTURE'S SET TO TOKYO」(本編約12分、  
ダイジェスト約4分30秒、6言語7種類)の2種類。あわせて、  
観光ガイドブック「TOKYO COLORS」(4言語)も制作。

吉川：おっしゃる通りですね。私たち  
が見ても東京のよさを再認識できる内

容になっていきますね。このツールがあ  
ることを都民も知つてほしいですね。

猪瀬：DVDの本編とダイジェスト版  
は東京都のホームページからダウン  
ロードできるようになつていたので、  
どんどん利用してほしいと思つていま  
す。(http://www.metro.tokyo.jp/SUB/  
MOVIE/index.htm)

### 目指すは成熟した環境都市東京 『都市型オリンピック』

吉川：「海の森」プロジェクトが進めら  
れていると聞きましたが、あれも東京  
オリンピックのための構想なのでしょ  
うか。

猪瀬：「海の森」構想は、東京湾の中央  
防波堤内側のごみ埋め立て地にシイノ  
キなど50万本を植えて、造成地を森に  
変えるという計画。建築家の安藤忠雄  
さんの発案で「環境オリンピック」に  
向けた全体構想の一環です。「海の森」  
ができれば、海風を呼び込んでヒート  
アイランド現象を防止することもでき  
る。招致に成功すれば、馬術やカヌー  
競技などの会場にも利用できます。そ

して、「海の森」と並行して、都心にあ  
る50万本の並木を100万本に増やし、小  
学校の校庭を芝生にする。こうして東  
京に緑を増やして、環境都市になつた  
東京でオリンピックをやりましょう、  
ということなんです。

吉川：前回のオリンピックとの違いは  
やはり環境に配慮したという点なん  
ですね。

猪瀬：都民のみなさんが「なぜ、今東  
京オリンピックなの？」って疑問に思つ  
ているかもしれません。でも、今だか  
らこそやる意義があるんです。

昭和39年の東京オリンピックは、高  
度経済成長期に行われた発展型のオリ  
ンピック。まさに、イケイケドンド  
ン！でした。日本の目覚ましい経済成  
長を遂げるきっかけになつたのが前回  
の東京オリンピックとすれば、今回の  
オリンピックは、経済的に環境的にも  
すべてに成熟した東京という都市を、  
世界にアピールするいい機会なん  
です。1988年のソウルや今回の北京のよう  
な途上国型のオリンピックでない「都  
市型オリンピック」のモデルを示すこ  
とができる。だからこそ、東京の成熟

さを実現するためにも、環境への配慮が重要なんです。渋滞緩和してCO<sub>2</sub>を削減したり、太陽光発電の選手村を作って温暖化防止へも配慮する。それが、今回の目指す「都市型オリンピック」の姿だと思っています。

### 太陽光発電の普及、CO<sub>2</sub>削減に向けて都の方針と対策も万全に

吉川…太陽光発電の選手村はとて面白い構想ですね。

猪瀬…かつては日本が太陽光発電では世界のトップだったんですよ。それがいつのまにかドイツに抜かれてしまった。国の自然エネルギー政策が遅れてしまった。ドイツ政府は、企業や家庭が太陽光で発電した電力を、電力会社が市場より割高な価格で買い取ることが義務づけている。20年間この価格での買い取りを保証されるので、太陽光パネルの設置費用は10年で回収でき、あとは利益になる。国民がこぞって設備を導入した。だから世界一になれたんです。

吉川…東京都は太陽光発電に対してど

んな対策をとっているのでしょうか。

猪瀬…東京都では太陽光発電装置を設置する際に、2年間で4万世帯に対して、最高1戸30万円の補助金を出すことにしました。太陽光発電の設置には、国からも30万円の補助が出るし、区によって金額の上限が違いますが、さらなる助成金もあります。例えば、今まで設置に200万円かかるところを、普及によって価格も下がれば、補助金を最大限利用して100万円ぐらいで導入することができるよう。時間がかることですが、こうして一步一步進めていくことが行政の役割だと思います。

吉川…東京都はCO<sub>2</sub>の削減にも取り組んでいくと聞きましたが。

猪瀬…「環境確保条例改正案」が東京都議会でも可決され、実施が決定しました。これは、CO<sub>2</sub>を排出する大規模な事業所に対する削減の義務付けをする条例です。これによって20年までに東京都でCO<sub>2</sub>を25%削減するという目標を立てました。国が掲げている「2050年までに」なんていう遠い先の話じゃなく、あと10年ちょっとで実現していこうと、全国に先駆けて具体的な目標と対

策を打ち出したわけです。

### 経済効果は3兆円!? 観光客の増加がキーワード

吉川…2016年に東京オリンピックが実現した場合、その経済効果はどのくらいなのでしょう？

猪瀬…石原都知事は3兆円と言っていますが、間違いなく観光客が増えますから、それなりの経済効果があると考えています。東京を訪れる外国人観光客は年々増えていて、2007年は533万人。これを2016年には100万人にすることを目標にしています。

吉川…昨年の倍の観光客を見込んでるということですか。かなり大変な数字にも思えますが。



猪瀬…僕は実現可能な数字だと思っています。北海道のニセコを思い出してみてください。今、冬になるとニセコにオーストラリア人が殺到していますね。あの現象は、9・11テロがきっかけで、それまでヨーロッパにスキーに出かけていたオーストラリア人が海外旅行に行きにくくなって、より安全で時差が少ない北海道に行ったのが発端。以来、スキー場はにぎわい、ペンションも増えて、経済効果もアップし、町の復興にも一役買っています。一度いいところだと認識されれば観光客は増えます。東京を知ったら、別の都市にも興味が沸いて行きたくなる。そうやって、東京をきっかけに日本全体に観光客が増えればいいんです。吉川…いろいろな会合で外国の方と接する機会が多いと思いますが、東京の印象はいかがでしょうか。

猪瀬…先日、中国の天津で開かれた「夏のダボス会議」に参加したんです。冬のダボス会議（スイス）は有名ですが、夏にも世界各国の企業トップや政府のリーダーが集まり、世界経済フォーラムが行われるんです。そこで出会った

ロシアの大富豪が、東京のことを大絶賛していたんです。「ホテルも快適で、サービスも行き届いていて、素晴らしい!! 食べ物ほどの料理も美味しくて、街も奇麗で最高!! もう一度東京に行きたい!!」ってこの言葉はすごく嬉しかったし、自信をさらに強くしました。

### 明るい東京＝日本のために常に、ポジティブ思考で!

吉川…最近、世界的な金融不安もあって、社会全体が暗いような気がするんですが、その辺はどうお感じですか。

猪瀬…はつきり言って、テレビのコメンテーターが「ダメだ!ダメだ!」と否定ばかりして、何も提案していないからダメなんですよ。「もっとここをよくすればいい」とか建設的な提案をしないと、日本はよくならない。もっとポジティブな議論をしていかないと、国民全体が下を向いて歩いているような国になってしまいますよ。

吉川…雇用問題も表面化してきましたが、都としての対策を教えてください。

猪瀬…例えば、ネットカフェ難民を雇

用した企業に、補助金を出すといった格差を固定しないように、少しずつでも働く意欲のある人を社会復帰させ、夢を与えて、ちゃんとフォローしていくことが大事だと思います。

吉川…猪瀬副知事のこれまでの取り組みを見ていると、いつも国や組織と闘っているという印象があるんですが、その原動力はどこにあるんでしょうか?

猪瀬…「そんなことできない、無理だろう」って思うことをやってみる。問題があったら建設的な意見で変えていかないと、日本はよくならないと僕は思うんですよ。道路公団の民営化だった、実現不可能だと散々なことを言われました。でも、いざ民営化してみたら、今はどうなったか? サービスエリ



アはきれいになって、美味しい飲食店も増えて利用しやすくなりました。今まで毎年3月に予算消化していた人たちも、会社組織にしたとたんに決算で結果を求められるようになる。経費削減をし、利益を増やさなければいけなくなる。予算が決算になるという感覚を持つだけでも、道路公団で働く人の意識変革になったと思うんです。

吉川…現在でも政府税制調査会と地方分権改革推進委員会の委員をされているらしいですね。

猪瀬…地方分権改革推進委員会はすごい熱い委員会(笑)。毎週1回3時間、年50回も会合をしていますからね。委員全員でケンケンガクガク。国の無駄な二重行政のチェックや、地方への権限委譲など、これからもどんどん国と闘っていきます。

### 元気な東京にするために女性の活躍に期待

吉川…最後に、私たち東京商工会議所の女性経営者に期待すること、メッセージをいただけますか。

猪瀬…僕はずっと働く女性の味方ですから。「男の顔は履歴書」と言われたけれど、いま仕事をする女性が多いので、「女の顔は履歴書」の時代になった。働いていると職業の年輪が顔に出るんです。考えてみれば、日本の女性は江戸時代から明治、大正と、町工場や商店等ですと働いていたんです。

それが、戦後の高度経済成長期に「専業主婦ブーム」みたいな現象が起こって、女性は家にいるべき、というような風潮が強くなった。それはごくごく最近のことなんです。女性はずっと働いてきたという歴史があって、僕は女性のパワーにはいつも期待しているんです。女性社長がもつとがんばれば、男性の刺激になる。元気な東京になるためにも、これからもみなさんの活躍に期待しています。

吉川…今日はお忙しいところ、貴重なお話ありがとうございました。これから、私たちも東京オリンピック招致、そして東京を元気にしていくために何かお役に立つような活動をしていきたいと思えます。